

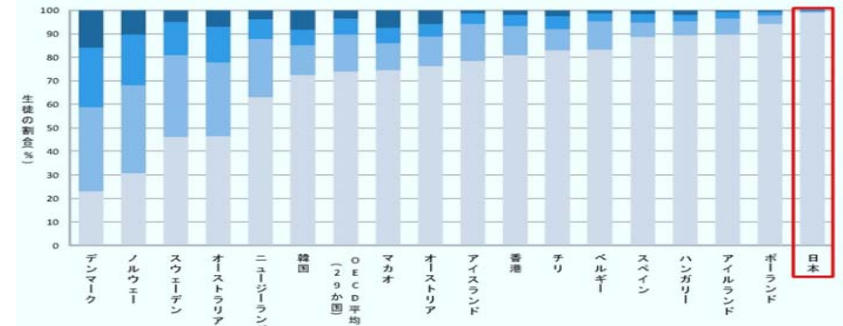
ICTドリームスクール懇談会について

平成26年6月

事務局

1. 背景

- 我が国の教育でのICT利活用がOECD加盟国の中でも低水準。
- 小学校、中学校ではPC教室はあるが、授業でほとんど使用されていないのが実情。



＜授業(国語)におけるコンピュータの使用状況＞
(PISA 2009年(平成21年)デジタル読解力調査結果)

2. フューチャースクール推進事業(平成22年度～平成25年度)

※ 文科省との連携事業

- 小学校10校※1、中学校8校※2、特別支援学校2校※2を対象に、タブレットPC(全児童生徒1人1台)や電子黒板(全普通教室1台)、無線LAN等のICT環境の利活用を推進

※1:平成22～24年度(なお、25年度は文科省事業の下で継続)、※2:平成23～25年度



大きく表示して発表



多様な考え方を共有



発表資料を全員に転送



画面を見ながら話し合い

役割	平成22～25年度実施事業	平成25年度予算額
総務省 (主として情報通信技術面)	フューチャースクール推進事業	4.9億円
文科省 (主としてソフト・指導面)	学びのイノベーション事業	2.6億円

OICT化の成果

ICT化による変化	児童の変化
情報量の増加 <ul style="list-style-type: none"> マルチメディアコンテンツ 情報伝達・受信の量 	学習意欲の向上 <ul style="list-style-type: none"> 授業に参加する 興味を持つ
時間の短縮 <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの再利用 情報伝達の迅速化 	情報リテラシーの向上・表現の多様化 <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の操作技能 情報の収集・整理・活用
見える化 <ul style="list-style-type: none"> 思考過程 他者の意見 	コミュニケーションの活発化・相互理解の促進 <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を説明する 他人の意見を聞く

3. 先導的教育システム実証事業(平成26年度～)

※ 文科省との連携事業

○フューチャースクール推進事業の課題に対応するため、クラウド等を活用して、学校・家庭を問わない継続した学習や、多種多様な端末に対応した低コストの教育ICTシステムを確立し、その成果を普及モデルとして推進する。

※フューチャースクール推進事業の課題
導入・運用コストの増大、学習内容等の分散保存・管理等

役割	平成26年度以降の事業	平成26年度予定額(要求額)
総務省 (主として情報通信技術面)	先導的教育システム実証事業	5.5億円(14.9億円)
文科省 (主としてソフト・指導面)	先導的な教育体制構築事業	1.2億円(4.0億円)

(参考)「世界最先端IT国家創造」宣言(抄) (平成25年6月14日閣議決定)

- 学校の高速度ブロードバンド接続、1人1台の情報端末配備、電子黒板、無線LAN環境整備、デジタル教科書・教材の活用等、初等教育段階から教育環境自体のIT化を進め、児童生徒等の学力の向上とITリテラシーの向上を実現。
- 2010年代中にはすべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で教育環境のIT化を実現するとともに、学校と家庭がシームレスでつながる教育・学習環境を構築する。

4. 行政改革推進会議「秋の行政事業レビュー」(平成25年11月14日)

○「秋の行政事業レビュー」(総務省・文部科学省合同)において、これまでの事業効果検証が十分といえないことから、先導的教育システム実証事業についても①コスト抑制に関する成果指標を設定すべき、②国民にもわかりやすく、理解される工程表を示すべき、③実証数を絞り込むべきと指摘

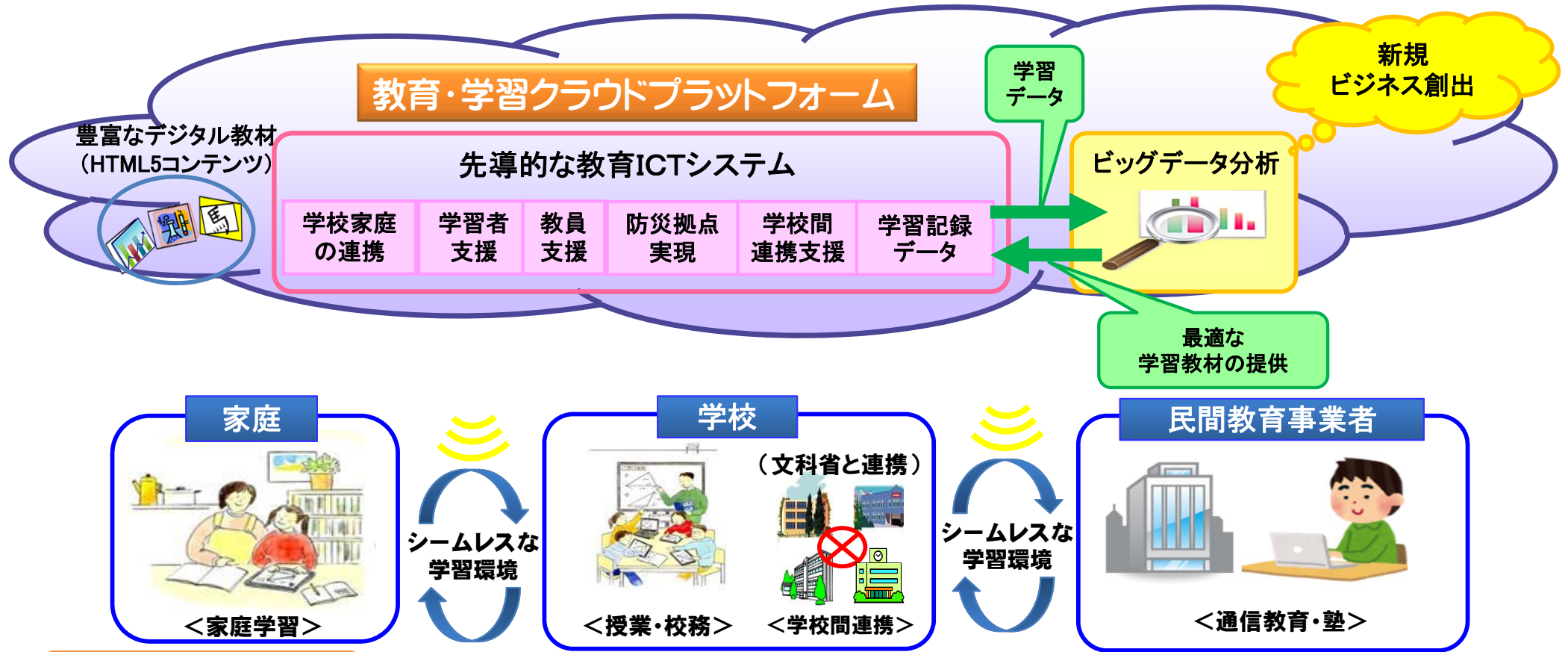
➡ ①及び②については、本懇談会において、構成員の意見等を踏まえながら、コスト指標を設定するとともに、工程表を作成する。

➡ ③については、今後の全国展開を見据えて、地域の教育情報化への取組、通信環境、学校の規模等を踏まえながら、教育情報化の普及モデルとなる3地域※3(予算要求時は10地域)を選んで実証事業を実施

※3 1地域4校:小・中・高・特別支援学校

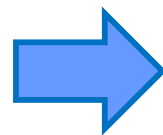
クラウド等を活用して、学校・家庭を問わない継続した学習や、多種多様な端末に対応した低コストの教育ICTシステムを確立し、その成果を普及モデルとして推進する。

※クラウドやブラウザの国際標準技術(HTML5)を活用したプラットフォームを新たに構築(実証地域:3地域)



実現するもの

- 学校授業と家庭学習の連携
- 教育分野のICT化のコスト削減
- 学習履歴を活用したきめ細かい指導



- どこでも学べる教育の場を提供
- 自治体・教育委員会の負担軽減
- 学習履歴を分析・解析する新規ビジネスの創出

背景

これまでの取組

○小・中・特別支援学校20校の全教室に電子黒板と無線LANを整備し、一人に一台のタブレットPCを配布して授業に活用。

最近の動向

- インターネット回線の**ブロードバンド化**による動画などのリッチコンテンツの台頭
- ビッグデータ**ビジネスの可能性
- クラウド技術**の進展

【参考】

- ①フィンランドではiPadで個々の生徒の得意・不得意の分野を把握することで生徒に応じた教育を実践
- ②アメリカなどでは、MOOCs※(大規模公開オンライン講座)や反転授業等、新しい学習スタイルの登場

※Massive Open Online Courses

→ 今後は最先端ICTを取り込んでより実践的な利活用と普及推進が求められる。

教育・学習分野のICT化の方向性

1. 地域・世帯年収を問わない学習機会の提供
 - ・地域や世帯年収の違いによる学習機会(塾など)の格差をICTを用いて是正
 2. ビッグデータ解析による生徒の進捗に応じた学習
 - ・生徒一人一人の学習履歴をビッグデータとして活用し、個々の進捗に応じた学習環境の提供
 3. クラウド技術を用いた学びの場の拡大
 - ・生徒が「いつでも」「どこでも」学習できる環境の実現
 - ・先生同士が教材・素材を共有できる環境の実現
 - ・民間教育資源の相互活用(学校・家庭・塾間のシームレス化)
- 等

ICTドリームスクール懇談会

◆主な検討事項

- ・ICTを活用した今後の教育・学習環境のあり方
- ・実現すべきICTモデルの具体化
- ・今後の展開方策

学力の
向上に貢献

ICTドリームスクールの実現



